

【資料 1】

事業の進捗について

評価の分類

順調、課題あり、未着手

※本資料中「令和7年度にやること」は、「現時点での計画」であり、実施が決定しているものではないことをご承知おき願います。

※本資料中の実績等はすべて令和6年12月末現在のものであります。

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-1. グリーンシーズン、全天候型のプログラムの造成

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町には冬の厳しい時期があるからこそ、鮮やかな四季の魅力、時間帯ごとの魅力があります。これらの魅力や楽しみ方をさらに掘り起こし、来訪者が楽しめる仕組みづくりを行います。また、悪天候時でも楽しめる滞在場所やプログラムの構築等も進めます。



©苗場スキー場



戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-2.ガイド組織の構築 前期（2022-24）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町では特に近年、苗場山や平標山の登山人気が高まっており、若年層も含めて多くの登山客が訪れています。また、登山以外にもトレッキングやトレイルラン、冬のバックカントリーなど様々なアクティビティがありますが、そこで重要になるのがガイドの存在です。現在、湯沢町ではガイドの組織が存在しないため、早急にガイド組織を立ち上げ、ガイドの見える化、お客様とガイドをつなぐ仕組みの構築を進めます。

実施時期中にやること	山歩きや町歩きの取組を通じて、ネイチャーガイドやアクティビティインストラクター組織の設立案の取りまとめを進め、ガイド組織の構築に向けた道筋をつけていく。		
令和6年度中にやること、やったこと	メンバーフレンドエリアのエリア登録を継続。		
令和6年度にできなかったこと、その理由、解決方法	町内で活動しているガイドの情報を集約するため、まずは活動している方のピックアップとコンタクトを進める。 メンバーフレンドエリアについては、エリア登録はしているが、有効に活用できていないとの指摘があったことから、会員事業者と連携しながらメンバー会員のメリットを高めていく取組を進める。		
評価	予算額	課題あり	744千円
令和7年度にやること	ガイド組織の設立に向けて具体的な協議をはじめめる。		

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-3. 町内の各エリアの特徴を活かしたコンテンツづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町には、苗場かぐらエリア、湯沢つちたるエリア、湯沢神立エリアと性格の異なる3つのエリアがあります。目的や滞在スタイルにあった選択をしていただけるよう、各エリアの特徴を際立たせた発信をおこなうとともに、エリアごとの魅力づくりを進めていきます。

実施時期中にやること	エリア協議会単位での支部化を進め、地域ごとの特徴を活かした、新しい観光ニーズに応えられる体制づくりを進める。「中里秋祭り」「飯土登山祭」「三国街道宿場マルシェ」などの地域で行われる事業において連携するとともに、プロモーション面でも協力する。		
令和6年度中にやること、やったこと	中里秋祭り、飯土登山祭、街道マルシェ、ぶらり街めぐりなど各エリアで行われているイベントにおいて「ゆざわマルシェ」の同時開催もしくは事業連携を進めるとともに、湯沢町観光まちづくり機構として運営支援、イベント当日のスタッフ対応などで協力した。また、地区観光協会長・部会長会議を開催し、機構の事業の説明と各地区（エリア）や部会からの意見集約を行った（7月、12月）。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	各エリアが行っている企画・イベント等のプロモーション分野における連携の強化。県政記者クラブやプレスリリースのサイト利用などを有効的に活用し、露出を増やし、各事業への集客につなげる。		
評価	予算額	順調	4,100千円
令和7年度にやること	プロモーション面では、より効果の高い周知方法の検討と実施。支部（エリア）や部会が実施する事業について、引き続き運営支援やスタッフ対応を行うほか、活用できる補助金等の情報のリサーチと申請支援を行う。		

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-4.温泉魅力の掘り起こしと温泉資源のさらなる活用

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町内には温泉旅館が集積した越後湯沢温泉のみならず、共同浴場や秘湯と呼ばれる貝掛温泉や赤湯温泉など、広い範囲で様々な温泉を楽しむことができます。こうした様々な温泉資源があることを強みとするためにも、源泉や泉質の特徴を再度見直し、魅力づくりを進めていきます。



©苗場スキー場



戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-5.湯沢町ならではの食・特産品の魅力づくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町産のお米は一等米比率が高いことでも有名です。米をはじめ、かぐら南蛮、トマト、アスパラガス、苺など季節ごとの質の高い農産物を活かした食の魅力づくりや特産品の開発を行っていきます。

実施時期中にやること	令和3年度にはじまった「ゆざわマルシェ」を町内イベントと連携させながら実施していく。湯沢町産野菜や加工品、クラフト作品などの紹介を引き続き行っていく。		
令和6年度中にやること、やったこと	【ゆざわマルシェ開催・イベント連携】 5/11 第3回花のまち・ゆざわグリーンフェス（越後湯沢駅東口駅前広場） 8/6 ハチロクゆかたまつり（温泉街） 8/15 湯沢夏花火（越後湯沢駅東口駅前広場） 9/14 スパルタンレース（ガーラ湯沢スキー場） 10/12-13 第2回越後湯沢クラフトフェア（湯沢中央公園・多目的広場） 10/19 中里秋祭り（湯沢中里スノーリゾート） 11/9 飯土登山祭（岩原スキー場）		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	キッチンカーなどの出店は順調に伸びているが、地場産品等の出店にはなかなかつながっていない。		
評価	予算額	順調	450千円
令和7年度にやること	地元生産者との連携を強化する。		

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-6.広域で周遊できる仕組みやコンテンツづくり（広域サイクルルートやトレイル等の活用）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

雪国観光圏や新潟県の玄関口・滞在拠点でもある湯沢町の特性を活かし、行政域にとらわれずに広域で楽しんでいただけるコンテンツづくりを進めます。特に、近年は自転車やトレイルランで楽しめるルートの整備なども行われており、周辺市町村や各協議会と連携しながら、受け入れ環境の整備を進めます。

実施時期中にやること	広域連携については雪国観光圏と連携しながら取組を進めることとしている。雪国観光圏とはそれぞれの役割を明確にしなが、今まで以上に緊密なやり取りを進める。		
令和6年度中にやること、やったこと	雪国観光圏とは、戦略会議や各ワーキングチーム等への参加や、他の構成市町村と合同で、フリーペーパーの作成分野で連携している。 共通リフト券事業における南魚沼市内のスキー場との連携が継続している。観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」においても、計画に定める範囲を南魚沼市にまで拡大し「越後湯沢エリア」として事業展開している（2年目）。 南魚沼市、魚沼市、十日町市、津南町とは定期的な意見交換会を開催している。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	190千円
令和7年度にやること	共通リフト券事業や「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」について、広域連携事業として引き続き取り組む。 また、南魚沼市、魚沼市とは「雪国魚沼 Golden Cycle Route（ゴールデンサイクルルート）」等の連携も深めていく。		

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
 - ✓ こうした湯沢町の特性を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。
- ※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-1.初めての人や子供、高齢者にやさしい安心安全なスノーリゾートづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

スノーエントリー層に世界一やさしいスノーリゾートを目指し、ウィンタースポーツを初めてする人、雪を見たことがないインバウンド、子供、高齢者、障がいのある方など、多様な方が快適かつ安心安全に滞在できるよう、ハード・ソフト両面の受入環境整備や情報発信、医療施設との連携体制の構築等を行います。

実施時期中にやること	令和2年度から観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」にエントリーし、安心・安全に向けた取組を進めている。新潟県やスキー場と連携しながら、各事業者とともにインバウンド対応やICゲートの導入などの事業を進めている。		
令和6年度中にやること、やったこと	今年度も引き続き、観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」のエリア採択を受けたことから、越後湯沢エリアとしての事業を進めている。各スキー場においても計画と連動する個別事業を実施している。 湯沢町観光まちづくり機構としては町とネクスコ湯沢管理事務所との連携で、関越道谷川岳パーキングエリアでのデジタルサイネージによる情報発信を行っている。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	3,300千円
令和7年度にやること	令和7年度も観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」が継続予定であることから、引き続きエントリーし、地域全体の魅力向上につなげる。		

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
 - ✓ こうした湯沢町の特性を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。
- ※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-2.回遊性の向上（ゲートシステムの導入と共通リフト券の導入等）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町内には規模や特徴の異なるスキー場が10存在しています。アクセスの良さから日帰りのスキー客も多いですが、できるだけ長く滞在していただき、ゲレンデの状態や好み等にあわせて回遊していただける仕組みを構築します。そのためにも共通リフト券の導入やゲートシステムの導入、スキー場シャトルバスの利便性向上等によって、お客様は快適に、受け入れ側にとっては滞在時間の延長による消費額の拡大やCRM（カスタマーリレーションマネジメント：顧客のデータを入手しつつロイヤリティを高める関係性を構築）による顧客との関係構築が見込めます。湯沢町全体を一つのエリアとして各主体、全事業者が認識・連携し、シームレスな（継ぎ目のない）スノーリゾートを形成します。

実施時期中にやること	町内共通リフト券については、湯沢町スキー場振興協議会との連携のもと事業を進めている。ユーザーにとって魅力の高い商品となるよう、新潟県、湯沢町他関係機関とともにブラッシュアップを図る。同時に、冬季の二次交通整備（情報発信含め）について協議を進める。		
令和6年度中にやること、やったこと	共通リフト券事業は、湯沢町及び南魚沼市内の全スキー場が参画し、越後湯沢エリアとしてスキー場との連携事業として進めている。 ゲートシステムの導入については、観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」を活用し、各索道事業者のシステム導入の支援を行っている。今季は苗場スキー場及びかぐらスキー場がゲートシステムを新規導入した。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	課題あり	7,230千円
令和7年度にやること	回遊性の向上につなげるため、交通事業者との連携を強化。		8

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
- ✓ こうした湯沢町の特徴を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。

※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-3. スキーをしない人も楽しめるコンテンツ・空間づくり

主導的に実施：湯沢町事業者 実施時期：前中期（2022-26）

日本では、スノーリゾートの楽しみ方は、スキーやスノーボード、雪遊びといったアクティビティに限られることが多いですが、ゲレンデやゲレンデからの景色を楽しんだり、ゲレンデ内にあるレストランやカフェでゆっくりする等、アクティビティをしない人でも楽しめる空間やアプローチを整備します。



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-1.観光客・住民の導線をふまえたグランドデザイン（戦略4の内容も含む）の検討 （導線確認、結節拠点などの整備、デザインコード）

主導的に実施：湯沢町（企画観光課、建設課）

実施時期：前期（2022-24）

来訪客の導線をイメージしながら、どこに案内拠点や結節点を設けて誘導するか、また、利便性の高い二次交通整備や機能的にもデザイン的にも湯沢町に合った観光案内サインの整備など、テーマごとではなく地域全体の機能とデザインを検討するグランドデザインを描きます。

実施時期中にやること	湯沢町環境色彩計画や「豊かな自然と調和した美しい湯沢町をつくる条例」を施行している。また、地域公共交通活性化協議会を設置し、町内の公共交通について議論する。		
令和6年度中にやること、やったこと	地域公共交通活性化協議会を設置して議論する。これまで2回開催済。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	3,764千円
令和7年度にやること	引き続き、R4に作成した計画推進のため、具体的な協議などを行う見込み。		



戦略3:居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、 Gondola等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-2.施設の適切な維持管理と開発コントロール

主導的に実施：湯沢町（企画観光課、防災管財課）

実施時期：前中後期（2022-31）

施設が放置されることなく適切に維持管理される仕組みを構築します。また、民間企業が投資・開発をしたいと思ってもらえる地域を目指すことは重要ですが、目指す地域像を共有しつつ、無秩序な開発をコントロールする仕組みを作っていきます。

実施時期中にやること	湯沢町空き家等の適正管理に関する条例を施行しているほか、空き家バンクを設立しマッチングを行っている。		
令和6年度中にやること、やったこと	空き家バンクの運営 登録済25件、成約21件、利用希望者73人		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	供給<需要の状況。		
評価	予算額	課題あり	75千円
令和7年度にやること	引き続き物件の掘り起こしを行う。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、 Gondola等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備

主導的に実施：湯沢町（企画観光課） 実施時期：前中後期（2022-31）

安全に歩いて、かつ歩きたい雰囲気のある街並みを整備していきます。また、特別な目的がなくても居たくなる場所や、ワーケーション等で滞在できる居心地の良い空間などを整備することで、来訪者の滞在時間の延長にもつながります。

湯沢町では、1992年に「豊かな自然と調和した美しい湯沢町をつくる条例」を制定しましたが、既存の条例や計画も再度見直す必要があるとともに、実際に実現できるようにするためにも、住民や事業者など全ての人の意識醸成を地道かつ長期間にわたって行うことが重要です。



実施時期中にやること		令和3年度に「商店街エリア活性化事業」を実施し、越後湯沢駅東口商店街の調査を行った。令和4年度も引き続き活性化支援を行った。	
令和6年度中にやること、やったこと		特に無し。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		既に駐車場としてしていること、また、店舗部分を賃貸することに抵抗があるとの意見があり、積極的な利活用に至っていない。地元の方と共に引き続き空き物件の利活用に取り組む。	
評価	予算額	課題あり	無し
令和7年度にやること		地元の方と共に引き続き空き物件の利活用に取り組む。	

戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのランドデザインを描きます。

3-4.湯沢町ならではの風景を楽しめる視点場の発掘と整備

主導的に実施：湯沢町（環境農林課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町には四季折々、町民それぞれに愛着のある多様な自然景観があります。これらの景観の魅力を発信していくとともに、こうした景観を楽しめる視点場を発掘し、発信していきます。

実施時期中にやること	令和2年度から魚野川右岸遊歩道整備、駐車場整備、トイレ建築を行った。		
令和6年度中にやること	遊歩道、駐車場、トイレの管理委託		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	828千円
令和7年度にやること	遊歩道、駐車場、トイレの管理委託（将来的には指定管理）。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのランドデザインを描きます。

3-5.戦略的な植物の植樹と整備

主導的に実施：湯沢町（環境農林課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢桜100選や、花の百名山といわれる平標山の他、ヒカリゴケなど町内では珍しい植物もみることができます。こうした貴重な植物を保全しつつ、標高差などを活かした植物の保全や植樹をおこない、湯沢町を代表する魅力的な景観の一つとして整備していきます。（3-1のランドデザインの中でランドスケープデザインも検討）



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくるのが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-1. シーズンごとの利便性を考慮した二次交通の整備

主導的に実施：湯沢町（企画観光課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町は、苗場かぐらエリア、越後湯沢温泉エリア、湯沢つちたるエリアの3エリアにわかれます。季節によって利用者も目的も異なりますが、路線バスは利用方法やルート等がわかりづらく、現時点では現金しか使えない等、初めて訪れる人やインバウンドにとっては使いづらい状況にあります。冬季は共通リフト券とも掛け合わせたスキー場シャトルバスの運行実験などをおこなっていますが、住民やリゾートマンション利用者などの利用も見越した上で持続可能な二次交通のあり方を検討し、整備していきます。

実施時期中にやること	地域公共交通活性化協議会を設置し、町内の公共交通について議論する。		
令和6年度中にやること	地域公共交通活性化協議会を設置して議論する。これまでに2回開催済。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	5,864千円
令和7年度にやること	引き続き、R4に作成した計画推進のため、具体的な協議などを行う見込み。		



観光立町宣言
湯沢町
君と一緒に暮らす町

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-2.インフォメーション機能の充実

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

越後湯沢駅構内に広域観光情報センター、西口に雪国観光舎がありますが、前者は場所が奥まわってわかりづらい、両施設の使い分けがわからないなど課題もあります。今後、両者の機能整理なども行いつつ、来訪者にわかりやすい案内所を整備します。また、駅のみならず、主要な観光施設、他エリアの地区観光協会の案内所の役割も整理していきます。



実施時期中にやること	越後湯沢駅構内の広域観光情報センターはこれまでのえちご魚沼観光開発協議会からの業務受託に加え、新潟県からの業務受託として、令和4年度から全県の情報発信を行っている。また、シャトルバスの誘導サイン等については、インバウンド対応として多言語標記とする。		
令和6年度中にやること、やったこと	新型コロナ禍が明けて、インバウンドが急速に回復しており、案内所には英語・中国語（台湾華語）対応が可能な職員を配置。 冬季の駅東口におけるシャトルバス案内（誘導員配置）を引き続き実施しているほか、駅ナカのサイン類を強化（インフォメーションボードの新設）した。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	2,327千円
令和7年度にやること	多くのスキー場シャトルバスが駅東口に集約し、乗換拠点としての機能が向上している一方で、お客様の飽和状態による混雑が発生している。誘導員配置などソフト面の対応は進めているが、駅東口ターミナルの冬季における運用方法については抜本的な見直しが必要と考えられる。		

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-3. 玄関口となる越後湯沢駅の耐震化と機能向上

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中後期（2022-31）

特に越後湯沢駅は湯沢町の玄関口であり、シンボルでもあります。耐震化工事等のタイミングに合わせ、駅のデザイン改修や機能向上についても提言をおこなっていきます。



<https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/images/group/11/nisiguti1.jpg>

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくるのが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-4.Wi-Fi整備、キャッシュレス決済等の推進

主導的に実施：湯沢町（企画観光課） 実施時期：前中期（2022-26）

特に新型コロナウイルス禍でテレワークやキャッシュレスが急速に進んでいますが、デジタル化ともあわせてWi-Fi整備、キャッシュレス化の推進は優先的にこなっていきます。

実施時期中にやること	キャッシュレス決済の促進		
令和6年度中にやること、やったこと	湯沢町内はキャッシュレス決済の導入が進んでいる。地域通貨（電子）の導入に向けて、事業者から情報収集した。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	地域通貨（電子）のランニングコストが高いのがネック。		
評価	予算額	課題あり	無し
令和7年度にやること	引き続き地域通貨（電子）の導入を検討する。		



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-5. 観光案内サイン、登山道、駐車場、トイレ等の適切な整備・管理

主導的に実施：湯沢町（環境農林課） 実施時期：前中後期（2022-31）

二次交通はもちろんのこと、現地までの適切な観光案内サイン、現地の遊歩道や登山道、駐車場、トイレなど、統一感のあるデザインのもとインフラ整備を適切におこなっていきます。

実施時期中にやること		平標登山口駐車場トイレ浄化槽入替（令和4年12月竣工） 合併処理浄化槽に入替、処理能力を向上。	
令和6年度中にやること、やったこと		適切な維持管理。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	
令和7年度にやること		適切な維持管理。	



着手前



完了

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくるのが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-6.多様な利用者を想定した受け入れ環境の整備

主導的に実施：湯沢町（建設課） 実施時期：前中期（2022-26）

インバウンド、宗教上の戒律がある方、障がいのある方、LGBTQ（性的マイノリティ）など、来訪者層はさらに多様化することが考えられます。多様性に対する正しい理解やサービス対応など、湯沢町の事業者や住民なども含めた全員が理解を深めながら受け入れ環境整備を行っていきます。

実施時期中にやること	越後湯沢駅東口EV設置。令和5年12月に稼働済。		
令和6年度中にやること、やったこと	適切な維持管理。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	
令和7年度にやること	適切な維持管理。		



戦略5：町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

戦略5 町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

基本方針②、④

- ✓ ここ数年の間に自然環境保全に対する意識は急激に高まっています。湯沢町では、2020年に第2次環境基本計画を策定しましたが、今後は観光面においても環境対策が行われていることが必要条件になると考えられます。
- ✓ 湯沢町は古くから自然の恩恵を受けて観光事業に取り組んできました。この自然を後世にわたって受け継いでいくためにも、地域一丸となって環境負荷の少ない観光地づくりをおこなっていきます。

5-1.環境負荷の少ない観光地づくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

観光地には大人数が訪れることから、どうしても環境負荷がかかってしまう傾向にあります。観光業による影響を認識しつつ、CO2削減、フードロスやフードウェイストの削減、プラスチックごみの削減、再生エネルギー活用の検討など、湯沢町流の環境負荷の少ない観光地づくりを進めていきます。

実施時期中にやること	パンフレットやチラシ類のデジタル化を進めることによるSDGsの推進。（印刷コストや配布コスト、原材料となる紙の削減）		
令和6年度中にやること、やったこと	着地型の観光マップとして、デジタルマップの制作事業者と連携を進めている（掲載店舗の拡大に向けての協力）。また、総合パンフレットについても見直しを進めている。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	課題あり	4,980千円
令和7年度にやること	デジタルマップは掲載店舗数の拡大に向けて、会員事業者等へのアプローチを続ける。総合パンフレットは令和7年度より大幅な改訂を図る予定。		

戦略5：町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

戦略5 町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

基本方針②、④

- ✓ ここ数年の間に自然環境保全に対する意識は急激に高まっています。湯沢町では、2020年に第2次環境基本計画を策定しましたが、今後は観光面においても環境対策が行われていることが必要条件になると考えられます。
- ✓ 湯沢町は古くから自然の恩恵を受けて観光事業に取り組んできました。この自然を後世にわたって受け継いでいくためにも、地域一丸となって環境負荷の少ない観光地づくりをおこなっていきます。

5-2.地域内外が一体となって取組める自然環境保全の仕組みづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町が多大な恵みを受ける自然環境を、利用しながら保全をしていく取組は、観光事業者だけでなく、行政、住民、来訪者なども含めてみんなでおこなっていく必要があります。すでに「フジロックの森」や「湯沢町自然環境保全基金」等の取組が進んでいますが、財源を確保しつつ、協力できる人が様々な形で支援・参加できる仕組みを全町で展開していきます。

実施時期中にやること	「湯沢町自然環境保全基金」や「フジロックの森プロジェクト」などそれぞれのエリアの強みを活かしながら、全町的な取組として進めている。ガイド組織の設立に向けた取組とリンクを強めていきたい。		
令和6年度中にやること、やったこと	フジロック開催期間中の「フジロックの森プロジェクト」ブースでの人員対応。 各種イベントでの「湯沢町自然環境保全基金」事業のPR。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	「湯沢町自然環境保全基金」事業の周知拡大		
評価	予算額	順調	200千円
令和7年度にやること	湯沢町自然環境保全基金の認知拡大と全町的な取組への発展。		



戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていく必要があります。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-1. 宿泊産業活性化

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

家族経営の民宿から団体を受け入れられる温泉旅館やホテルまで、様々な規模の宿泊施設が立地していますが、宿泊施設単体の経営力の向上を図りつつ、ハード・ソフトにおいて魅力を高める取組を支援していきます。（宿泊施設統計の仕組みづくり、宿泊施設経営等の勉強会の開催、ワーケーション促進など）



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/sightseeing/>



ゆざわカルタ

戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていくことが必要です。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-2.DX（デジタルトランスフォーメーション）などを意識した観光関連産業の生産性向上

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

特に、海外ではデジタル技術を活用したシームレスなサービスの提供が急速に進んでいます。宿泊施設のバックヤード、地域の交通システム、顧客情報の入手とサービス提供などが一体となったCRMの確立など、施設内、地域全体におけるデジタルトランスフォーメーションを推進していきます。（デジタル化すべき場面と人がやるべき場面を見極めて導入）



実施時期中にやること	ゆざわマッチボックスの開始、セルフソーシングの導入促進。		
令和6年度中にやること、やったこと	R6.12末現在 登録者数1,432人 4～12月採用件数3,285件（昨対比157%）		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	保育士やタクシードライバーなど資格が必要な求人の応募が無かった。資格保有者に認知されるよう周知方法を検討する。		
評価	予算額	順調	2,200千円
令和7年度にやること	ゆざわマッチボックスの継続（登録者数、求人数、採用件数の増加を目指す。）。		



戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていく必要があります。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-3.農業、製造業、商業等を含めた湯沢町の観光に携わる全ての人の連携体制の強化

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前期（2022-24）

町内でも横のつながりが希薄であるとの課題が挙げられています。業種を超えて交流できる機会を増やしていくとともに、お客様にタイムリーに提供する情報の共有、緊急時の連携体制の確立などをイメージして連携体制を強化していきます。

実施時期中にやること	湯沢町観光まちづくり機構の理事会は宿泊、索道、商工、農業、交通など多業種の方に入っていただく構成としている。また、町内の事業者情報の集約を進め、多様な業種が網羅された町内事業所リストの作成を進める。		
令和6年度中にやること、やったこと	事業の性質別にプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトチームで事業を主導する。また、事業の実施にあたっては地域おこし協力隊、地域活性化起業人、町内外関係事業者との連携を積極的に進めている。R7.1月から地域活性化起業人とともにマーケティングや情報発信、インナープロモーション等の事業の強化を図る。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	プロジェクトチームを立ち上げたものの、運用面で活かしきれていない。プロジェクトチームの定期的な開催とプロジェクトを軸として事業を推進するという意識の浸透。		
評価	予算額	課題あり	404千円
令和7年度にやること	地域活性化起業人とともにマーケティングや情報発信、インナープロモーション等の事業を強化する。		

戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていく必要があります。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっています。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-4.人材確保・人材育成の仕組みづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中期（2022-26）

観光産業は特に人材確保と定着率の向上が課題となっています。無理なくやりがいをもって仕事を続けられるためにも、6-1、6-2のような業務改革が必要になります。さらに、町内で働く者同士のネットワーク構築やスキルアップのための支援を地域を挙げておこなっていくほか、スキルのある町外の人材にも積極的に活躍していただける仕組みを検討します。

また、すでに湯沢学園で取組が行われていますが、町の基幹産業として子供の頃から観光への理解や町外からの来訪者に対するおもてなしの心を高める教育の機会を増やしていきます。

実施時期中にやること	コンプライアンス・ガバナンスをしっかりと意識した機構事務局の運営。職員の労働環境を整えながら個々のスキルアップと生産性の向上を図る。		
令和6年度中にやること、やったこと	DMO化して4年目となり、設立当初に定めた定款及び各種規則を実態に即した内容に見直しを進めている。DMOとして取り組む事業を明確にする。また、事務処理の手続方法についても、厳格化するなどガバナンスの強化に努めている。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	もっと積極的に各エリア・各部会と関係性を持つ必要がある。情報共有の部分では、会員向けページの構築が行われたが、まだまだ周知不足のため、会員への認知を進める必要がある。		
評価	予算額	課題あり	—
令和7年度にやること	インナープロモーション強化。研修会開催による人材育成・ネットワーク構築など。		

戦略7：“戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

戦略7 “戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

基本方針③、④

- ✓ ターゲットと手法を見据え、費用対効果を意識した戦略的な情報発信をおこないます。また、町内の各主体が個別に整備してきたパンフレット、ウェブサイト、プロモーションの内容と実施主体を全て見直し、利用者にとってわかりやすい情報提供を行います。
- ✓ プロモーションについては県や外部機関とも連携しながら、まずは発信する中身を伴った上で効果的に実施していくものとします。
- ✓ 取組や受け入れ体制整備が進むかどうかは、地域内に対してどれだけ情報が浸透しているかが重要なポイントになります。行政や観光関連団体が目指している方向性、施策、取組などを適切なタイミングで共有しつつ、定期的に相互にコミュニケーションを図ることで信頼を得ることもつながります。観光事業者や観光推進組織の会員のみならず、住民も含めた情報共有やインナープロモーションにも取組みます。

7-1. 利用者目線の情報発信と費用対効果を意識したプロモーションの戦略的实施 (外部機関や県等との連携等)

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

まずはこれまでの紙媒体、ウェブサイト、SNS、プロモーションの内容を見直し、ターゲットを想定した上で情報発信戦略、プロモーション戦略を策定します。また、内部の資源の掘り起こしと磨き上げを行いつつ、情報発信の中身についても再構築します。

また、インバウンド向けの情報発信についても、国や調査期間が公表しているデータ等のさらなる活用と共有を図り、研究を進めるとともに、県等と定期的にコミュニケーションを図りながら連携して発信をおこないます。



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/>

実施時期中にやること		プロモーション手法の見直し。	
令和6年度中にやること、やったこと		国内外向けにSNSなどを活用したプロモーションの実施により、ターゲット層へのピンポイントな告知。一方で、新聞やTV等の不特定多数に対するプロモーションの最小化。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		引き続き、情報があふれる社会において、いかに埋没しない魅せ方ができるかについて絶えず情報収集していく必要がある。また、BtoBの対応としては新潟県観光協会が実施する各種商談会等へ参加。	
評価	予算額	課題あり	5,081千円
令和7年度にやること		事業ごとにターゲット層を明確にし、費用対効果の高いプロモーションを更に進めていく。	

戦略7：“戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

戦略7 “戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

基本方針③、④

- ✓ ターゲットと手法を見据え、費用対効果を意識した戦略的な情報発信をおこないます。また、町内の各主体が個別に整備してきたパンフレット、ウェブサイト、プロモーションの内容と実施主体を全て見直し、利用者にとってわかりやすい情報提供を行います。
- ✓ プロモーションについては県や外部機関とも連携しながら、まずは発信する中身を伴った上で効果的に実施していくものとします。
- ✓ 取組や受け入れ体制整備が進むかどうかは、地域内に対してどれだけ情報が浸透しているかが重要なポイントになります。行政や観光関連団体が目指している方向性、施策、取組などを適切なタイミングで共有しつつ、定期的に相互にコミュニケーションを図ることで信頼を得ることもつながります。観光事業者や観光推進組織の会員のみならず、住民も含めた情報共有やインナープロモーションにも取組みます。

7-2. 地域内へのわかりやすい情報共有（インナープロモーション）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

地域内の事業者や住民向けに、行政や観光関連組織の取組や観光振興による効果（例：観光消費額や経済波及効果等）を広報等で定期的に発信することで、町の基幹産業としての観光産業の実態を広く共有していきます。また、観光振興が地域住民の住みやすさや誇りの醸成にもつながるといふ観光振興への理解を高めることで、観光客に対するおもてなしの心も醸成していきます。

また、個別事業者への連絡や情報共有についても、発信時期の遅さや共有ツール等による共有の遅れ等の課題が指摘されてきました。デジタルツールなども活用しながら、よりタイムリーに伝わる仕組みを検討します。

実施時期中にやること		広報ゆざわでの発信、会員向け情報発信ツールの導入。	
令和6年度中にやること、やったこと		広報ゆざわでの定期的な情報発信。ホームページ内に会員専用ページの構築が完了し、補助金情報やセミナーのお知らせ、外部団体からの情報などの掲載を行っている。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		会員専用ページの認知度向上。	
評価	予算額	課題あり	—
令和7年度にやること		会員事業者等へのFAXでの情報展開に加えて、ホームページ内の会員専用ページの活用やLINE等を組み合わせた手法の本格的な稼働。有益な情報や必要な情報が入ってきたときに、情報がいち早く会員に届くよう、情報の停滞を生まない、発信方法のシステム化。	

戦略8：効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-1. 観光関連組織の再編と組織改革

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前期（2022-24）

引き続き、（一社）湯沢町観光まちづくり機構の業務改革と各地区観光協会の支部化による組織再編を進めます。また、広域としての雪国観光圏のブランディングをしつつ、特徴ある民間事業者の取組を牽引する（一社）雪国観光圏と、湯沢町内の観光まちづくりをボトムアップで進める湯沢町観光まちづくり機構との役割分担を認識し、連携しながら取組を進めます。

（一社）湯沢町観光まちづくり機構については、2021年3月に観光地域づくり候補法人（候補DMO）として登録されました。今後、登録観光地域づくり法人（登録DMO）を目指します。

また、適切な情報公開により信頼を高めていくとともに、業務の効率化やスキルアップなどを図りながら、職員のパフォーマンスの向上などを進めます。

実施時期中にやること			
令和6年度中にやること、やったこと		各エリアとの組織再編に向けた検討を進めている。一部地区観光協会においては事務局業務の連携を開始した。 また、湯沢神立支部においては、R7.4月に支部としての正式な立ち上げを進めている。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		職員の外部研修等への積極的な参加	
評価	予算額	課題あり	—
令和7年度にやること		職員個々のスキルアップを図るため、積極的に外部研修にも参加する。 他の地区観光協会等においても事務局業務など連携を取りやすい分野から、役割分担と連携を開始する。	

戦略8:効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施

主導的に実施：湯沢町（企画観光課） 実施時期：前期（2022-24）

観光統計は全ての観光政策の基本になります。現在実施している観光関連の統計について、調査方法、調査項目などを全て見直して観光統計を整備します。また、観光統計と絡めた上で顧客情報を入手しつつ、適切なサービスを提供することでロイヤルティを高めるCRM（Customer Relationship Management：顧客関係管理）等も検討していきます。



集める
データ収集・通知
 140以上のアプリから
 GPS経由で位置情報データを取得

実施時期中にやること		観光統計の見直し。	
令和6年度中にやること、やったこと		消費額調査について、従来の駅での対面調査に加えネット調査を実施。	
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	課題あり	2,523千円
令和7年度にやること		新たに「人流データ計測サービス」導入（宿泊統計の代替及び来町者属性の把握、マーケティング展開）	



戦略8：効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-3. 新たな観光財源導入の検討

主導的に実施：湯沢町（総務課、税務課、企画観光課）

実施時期：前期（2022-24）

本計画で掲げているようなハード、ソフト両面の取組を確実に実行していくためには、確実に観光に使える財源を確保することが必要です。ふるさと納税の増収を目指すほか、近年他地域で導入が進んでいる宿泊税や、湯沢町内で導入されている湯沢町自然環境保全基金など、使途に合った観光財源について検討を進めます。

実施時期中にやること		観光自主財源導入検討。		スケジュール	
令和6年度中にやること、やったこと		観光自主財源導入検討支援業務委託（R5から繰越）。 観光自主財源セミナー参加。 地区観光協会等との意見交換会。 税の専門家による勉強会。 湯沢を訪れた方を対象としたWebアンケート。		関係者の理解を深めるための取組	令和6年5月から 令和8年3月
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法				有識者会議	令和7年10月から 令和8年1月
				条例提出	令和8年3月
				総務省協議	令和8年4月
				総務大臣同意	令和8年7月
				周知期間	令和8年8月から 導入まで
評価	予算額	課題あり	8,722千円	導入	令和9年4月以降
令和7年度にやること		宿泊事業者との合意形成、有識者会議			

戦略8：効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-4.自然災害、感染症等の多様なリスクへの対応

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

地震、台風、豪雨、感染症など、観光を取り巻くリスクを想定し、緊急時に関係者（行政、事業者、医療機関、保健所等）とすぐに連携・連絡できるようネットワーク体制を築いておきます。また、湯沢町としてのDCM（Destination Continuity Management：観光地継続性マネジメント）の策定を検討します。



<https://livelife.town.yuzawa.lg.jp/working/>



<https://www.town.yuzawa.lg.jp/soshikikarasagu/somubu/somukanrika/2/2/1/1298.html>

実施時期中にやること	令和3年度に湯沢版BCPとして、各事業者が自社のBCPを作成できるツール整備を行った。引き続き、運用に向けた作業を進める。		
令和6年度中にやること、やったこと	会員事業者向けにBCPのフォーマットの作成を進めている。今年度、会員展開予定。		
令和6年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	—
令和7年度にやること	インバウンド増加に伴う、緊急時の外国人向けの情報発信の手法等の検討。		